

第5節 視覚障害特別支援学校で大切にしたい支援

- 1 視覚に障害のある幼児の生活と学びを豊かにする支援
- 2 保護者に寄り添う温かい支援

1 視覚障害のある幼児の生活と学びを豊かにする支援

(1) 安心・安全な環境（人的・物的）で意欲を育む支援

視覚障害のある幼児は、見えないことから不安になりやすいため、安心した気持ちを持てるよう手をつないだり、温かい声をかけたりするなど、幼児の僅かな心の動きに応答するように心掛けている。安心した気持ちは、幼児の主体的な活動を促す基盤となるので、視覚障害のある幼児にとって教師の信頼に基づく関係は大変重要である。

手指や足裏の感覚から周囲にある情報を得るなど、視覚を補えるような環境を整える配慮を行っている。自分から移動しようとする意欲を大切に、物の配置を固定したり、廊下には障害物を置かず、歩行の手がかりとなる手すりを取り付けたり、カーペットなど、足裏の僅かな感覚から自分のいる位置を把握できたりするような工夫を行っている。

(2) 自分でできる基本的な生活習慣の育成

衣服を選ぶ際には自分で練習しやすいように、着脱が簡単で少しゆとりのあるものを保護者をお願いしている。衣服を着る際の持ち手の場所が分かるように、服の後ろの裾やズボンの前の両端に飾りぼたん等で目印をつける工夫をする。着る動作一つ一つに温かい言葉かけを添えて励まし、大人の支援を徐々に減らして一人で着脱ができるようにしている。

食事においては、お盆の上の食器の位置を固定し、食べ物の配置が分かるようにしている。器の壁面が垂直など、スプーンですくいやすい食器や、白いご飯を見やすい黒い茶碗など、幼児に合った適切な食器を使うことにより、自分で食べる気持ちを育てている。

(3) 五感でつかむ、確かな思考形成：核となる体験

身の回りで起きている事象を把握するために、五感を十分に活用できるように促している。触覚と聴覚を活用することは大変有効である。触ることが楽しく、触ったら心地よかったという経験を多く積み、触る手を幼児期に育てている。実物に触れる機会を作り、触り方を教える。確かな概念を形成するには核となる体験活動を重視し、触るものを厳選する。例えば花の概念を育てるにはチューリップやユリ等、分かりやすいものを選び、手で順番に土から茎、葉、花弁までたどるよう支援する。

聴覚を活用することは、外界への興味・関心を広げる窓口になる。対象物に向かって手を伸ばすリーチングが出現しにくい視覚障害のある幼児にとって、聴覚活用は重要である。そこで、音の出る玩具などを用いて遊びに誘うようにしている。楽しい遊びであることが分かると、音のする方に向かって（音源を定位して）移動する意欲を育てることができる。聴覚は、空間の広がりや把握することにも役立つ。そして、聞こえる音情報を整理して伝え（水の音、足音、鳥の鳴き声等）、言葉の概念を育てる。その際、バーバリズム（視覚障害者が、耳で聞いた情報だけでものごとを理解できたと思ってしまうこと）にならないように、実体験を伴うようにすることが大切である。実物での体験が難しいときには、模型を準備するようにしている。

また、幼児が聞くことに集中しているときには、大人がその状況を妨げないように見守ることも必要である。大人の余計な声かけや過剰な励ましなどが、幼児の集中を途切れさせることがないように静かな環境を作る。情報が必要などときには的確な言葉で説明し、集中して感覚を活用しているときには余計な刺激を与えないという配慮が大切である。

(4) 動くことが楽しい基本的な体づくり

運動の基本となる動作は、歩く・走る・投げる・跳ぶことである。視覚に障害があると見よう見まねができないため、運動に制限を受けている。手とり足とりで丁寧に体の動かし方を教えることが必要になる。時には遊具などを用いて実際に楽しみながら体を動かす活動を行い、汗を流す心地よさを味わい、健康な体を作る。実際に体を動かしながら、細かい身体の部位やボディイメージを育てていくことが大切である。

また、手と指は第二の脳とも言われ、視覚障害のある幼児にとっては、外界を知るための窓口となる。見えないため、物の存在が分からず、物に手を伸ばす行為が難しい。幼児のすぐ近くに興味を持たせるような音の出る玩具を置くなど、環境に配慮している。手でにぎる、動かす、触る、探す活動を支援し、基本的な手指の機能を高めていく。

(5) 見えない、見えにくくても学べる環境

全盲の幼児を指導する時には、周囲にある物の配置を固定する工夫をしている。物の位置が自分の位置を知る目印（ランドマーク）となっている。ランドマークを手がかりにして一人で移動ができるよう支援をしている。

物を提示する時には、枠組みのある箱や、トレーを用意し、物を手探りで触れるように工夫している。物を触る時には、全体像がつかめるようにまずは全体を大きくたどり、次に細かい部位を探るように触るよう支援をしている。

弱視の幼児が残存視力を十分に活用できるための工夫として、部屋の明るさを幼児に応じて適切に調整したり、書見台で絵や写真、本を見やすい角度にしたりしている。本などについては、コントラストや色使いが明瞭であり、原色など、色合いの区別が分かりやすいものを選んでいく。

また、視覚補助具として、拡大読書器や、ルーペ、近用・遠用レンズ、単眼鏡、iPadの拡大アプリ、時刻を知る用具として、音声時計や黒盤に白色数字の時計を用いている。外での活動において太陽光の眩しさを感じる場合には遮光眼鏡を装用し、つば広の帽子を被るよう支援をしている。

(6) 共に生きる喜びを味わえる仲間づくり

視覚障害特別支援学校には、全盲だけでなく弱視など、視覚障害に係る様々な障害の幼児が通う。見えにくさを補う配慮された環境の中で共に楽しく関わりあえる友達の存在は貴重である。幼児自身が感性や思考を働かせながら、時には自分のペースに合わせてしっかりと活動に取り組み、自分らしく伸び伸びと自己実現を図れる場となるように環境を整えている。幼児同士や、教師との関わりの中で温かい人間関係を築き、興味関心を広げ、主体的に学ぼうとする基礎的な力を育てている。励まし合い、気持ちが響き合える仲間がいる集団を味わえるようにしていく。

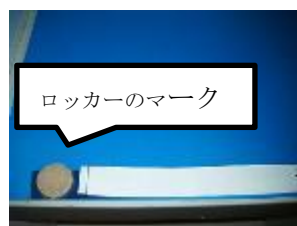
2 視覚障害のある幼児への支援や配慮の工夫例

(1) 安全



廊下には、障害物は置かず、角のある物にはクッション緩衝材を取り付けるなど、安全に配慮している。弱視の幼児のために洗面台や段差には縞模様で注意を喚起している。

(2) 自分でできる環境（ロッカー、靴箱、机、椅子）



色画用紙や、色テープ、触って分かるマークなどを貼り、自分や友達のロッカー、靴箱などが分かるようにしている。幼児ごとのマークを用意し、自分の物の位置が分かるようにしている。

(3) 自分でできる環境 (場所の固定)



全盲の幼児には、自分のロッカーの位置が分かるようにカーペットを敷いている。教材の棚は、常に同じ物を入れるようにし、自分で選んだり、片づけたりできるようにしている。石鹸の位置も固定している。教室内の机の位置も同じ位置になるように、テープで印をつけている。座席やロッカーの位置は、幼児の導線を考えている。例えば、ある全盲児は、ロッカーに背をつけて移動すると自分の机に行くことができるようにしている。

(4) 自分でできる環境 (食事)



自分で食べる練習用の食器である。持ち手に向かってスプーンを動かし、そのまま上に動かすとすくって食べることができる。弱視用の茶碗は中が黒く、ごはんの残りが見えやすくなっている。給食のお盆の上で食器を置く位置を決め、常に同じように配膳をする。

(5) 自分でできる環境 (衣服)



保護者に依頼をして上着は背中、ズボンはお腹の持つ位置にボタンをつけてもらっている。弱視の幼児はコントラストのある色が見やすい。日々、練習をして自分で着替えができるようにしていく。

(6) 実物に触れる



実物に触れることを大切にしており、玄関には季節の花や木の実、野菜や果物などを置いている。食育では、実物大のカジキマグロの絵を使った。畑の学習では、種まき(苗植え)から収穫までを体験する。収穫したさつま芋は、集めた落ち葉で焼き芋会を行ったり、芋を色々な形に切ってスタンプ遊びをしたりした。

(7) 玩具



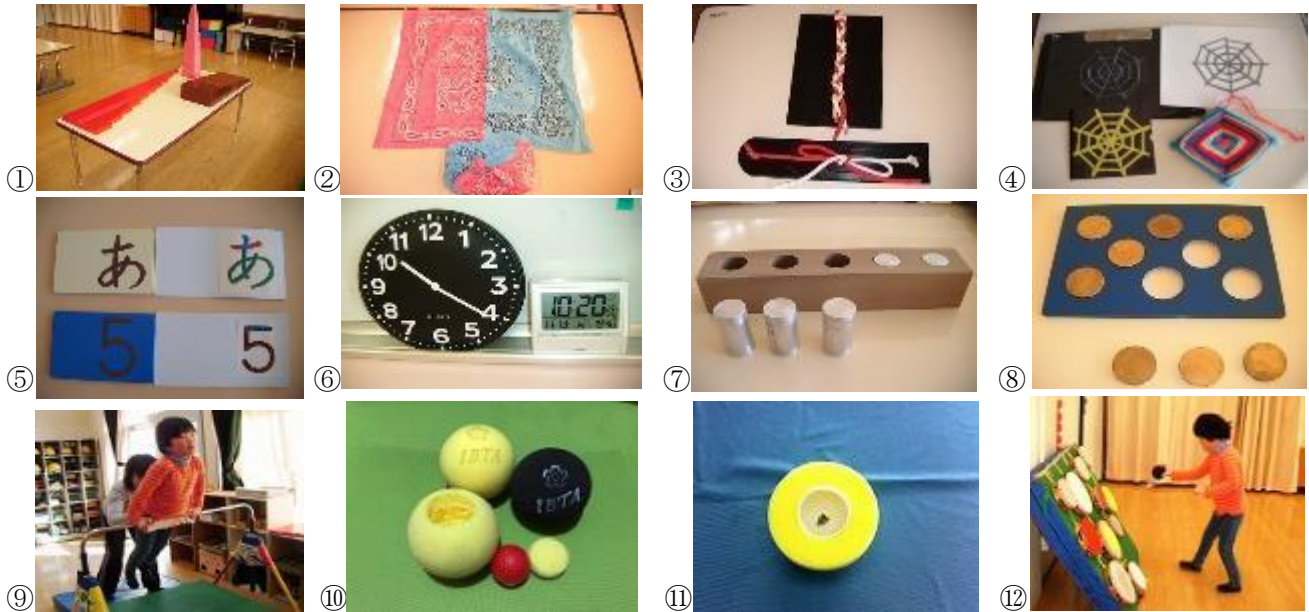
年齢の小さい子供たちは、光、音、振動の出るおもちゃで遊ぶ。①「ボール落とし」は、転がり落ちていく軌道とチャイムの音を楽しむ。②「カラコロツリー」や、③「シロフォン付き玉の塔」は、親指と人差し指・中指を輪にして玉をつまみ、穴に入れたり、玉を目で追ったり、音やリズムを楽しんだりする。④は、きれいな音が出るさまざまな楽器を使って音楽会を行っている。

(8) 視覚補助具



弱視の幼児には、補助具を積極的に使っている。①拡大読書器は、拡大の他に色やコントラストを変えることができる。②単眼鏡は、遠くのを拡大してはっきり見る時に使う。③タブレット端末は、昆虫や花などを撮影し、拡大して見る時や、行事の見学に使う。④書見台は、正しい姿勢で読んだり書いたりする時に使う。

(9) 教材・教具



①「モンテッソーリ教具」(長さの棒、茶色い階段、ピンクタワー)は、感覚を洗練させ数や量を学ぶことができる。②③は弱視の幼児のために、色のコントラストや、明るさに配慮した教材である。④製作の時間に作った「くもの巣」は、レーザーライターという浮き出る紙や、立体コピー、切り絵などを使って、形をイメージした。⑤砂文字は、触覚も使ってひらがなや数字を覚える。色で筆順を示している。⑥文字板が見やすい時計と音声時計を並べ、時刻が分かりやすいようにしている。⑦⑧落としたり、はめたりする教材は、手指を動かしながら学ぶ。⑨屋内に鉄棒を置き、運動を日常的に楽しむ環境をつくる。自分の身体を支えたり、逆さの感覚を感じたりすることができる。⑩ブラインドテニスのボール。⑪スポンジ製で中に音源があり、安全にボール遊びを楽しめる。⑫マットにタンブリンをぶらさげて的を作り、当たったときの音を楽しみながらボール投げの練習をしている。タンブリンに色をつけ、弱視の幼児が見やすいように工夫している。

(10) 教材・教具 (はさみの使い方：弱視の幼児への段階的指導)



はさみの初期指導には、大人と一緒にハサミを開いたり、閉じたりできる補助バサミを使う。ばねバサミは、ばねで開くため、一人でも扱いやすい。線に沿って切る練習では、左の写真のように切る線を見やすくする工夫をしている。目の近くで、はさみを使う時には、安全のための保護メガネを使う時がある。

3 視覚障害特別支援学校幼稚部の日課表例

時間	月	火	水	木	金
9:15			登校		
9:30	準備・健康観察・着替え・トイレ のびのびタイム・朝の会 (課題別指導・リズム体操・自由遊びなど)				
10:50	お集まり (出席確認・歌等)				
11:00	設定遊び (散歩、感触・製作遊び、運動遊び、 音楽遊び、課題別等)				
11:40	自由遊び・トイレ				
12:00	給食準備・給食・歯磨き・片付け				
13:00	自由遊び・トイレ・着替え				
13:30	帰りの会				
13:45	下校				
14:30	個別相談 (13:45~14:30)				

【日課表設定の理由】

- 一日の生活の流れが見通せるよう帯日課としている。
- 日常生活で必要な力である「準備・着替え・トイレ」「給食」「片付け」を日課に取り入れている。
- 「のびのびタイム」は、遠方からの通学の配慮や様々な障害のある幼児への対応を考慮している。身体づくりなどのリズム運動や、幼児の学びに応じた課題別学習など、幼児が自らののびのびと活動できる時間としている。
- 「自由遊び」は、幼児の興味・関心の広がりや仲間とのかかわり合いを大切にしている。
- 障害が理由で体の動きを制限されることが多い。「身体づくり」や「運動遊び」、「散歩」では、様々な身体の動きができるよう、「感触・製作遊び」や「音楽遊び」では、情操、表現する力を育てるよう工夫している。
- 「帰りの会」では一日の生活の楽しい振り返りを行い、明日の活動に期待が持てるようにしている。
- 放課後には、保護者との連携を図るために「個別相談」を行っている。

4 視覚障害のある幼児の保護者支援の実例

我が子に障害があると分かった時には、保護者は将来に大きな不安と悩みを抱く。こうした時に、保護者が我が子の障害をどのように受容するかが、その後の望ましい成長・発達に大きな影響を与えることが多い。前向きな気持ちで育てていくための保護者支援を行うことが大切である。

(1) 話を聞く（傾聴）

保護者は様々な悩みや不安を抱えている。保護者が安心して自分の気持ちを話しても大丈夫なんだと感じ取れることが大切である。接し方や声のかけ方など、細かな点にも配慮が必要である。幼児がこれまで育ってきた様子や、病院でのできごと、そのときに感じた保護者の様々な思いなど、涙の出る話も多い。保護者をしっかりと受け止め、話に耳を傾けることが何より大切である。

保護者は子育ての経験が少ない上に、幼児に障害があればどうやって育てて良いか分からず、不安になることが多い。母親は自分が生んだことで、周りの視線や心ない言葉に傷ついている場合もある。保護者の心に配慮し、ともに幼児を育てていくという姿勢が必要である。

(2) 見え方のシミュレーション

幼児の実際の視力や見え方などが大よそ分かる場合は、シミュレーションを行ってもらおう。保護者に幼児の見えにくさからくる制限を理解してもらおうことは大切である。幼児の場合、少しでも見えていると、周りの大人からは日常生活では、不自由なく動いているように見られてしまう。小学校のように文字や細かなものをよく見るといった場面が少ない上、幼児自身も生まれてからくっきりともものを見たことがないために、自分が見えにくいのだということに気付かずに過ごしている。

実際にシミュレーションを行うことで、どんな場合が見えにくいのか、どれだけ子供が努力しているのかを理解してもらおう助けになる。生活の中で不便がないように過ごしていても、実はとても苦勞しているの、見えやすくするための工夫や環境について保護者自身に理解してもらおうことで、幼児は安心して過ごせるようになる。

(3) 同年齢や、先輩保護者の活動を見る機会

保護者にとっては現在の生活そのものも不安であるが、将来についてもどうなっていくのか不安を抱えている。少し先の見通しがもてることは、安心して過ごしたり、子供に向かう気持ちを育てたりする面でも違いがある。先輩の活動を見ることは大きな励みとなっている。

(4) 同じ障害のある子をもつ親との交流の場

同じ障害のある子をもつ親同士が交流を図ることは大切である。どんな点に気をつけて育てているか、共通の思いを感じたり、情報交換をしたりすることで、我が子に対する関わり方が違ってくる。

(5) 保護者学習会の例（平成29年度）

	期日	内容
1回	4月10日（月）	保護者の顔合わせ、一年間の予定
2回	6月1日（木）	校長との懇談会
3回	6月15日（木）	幼稚部主事との話し合い（保護者学習会の今後の予定等）
4回	7月11日（火）	白杖について（講義・実技）
5回	9月19日（火）	本校普通科教師（全盲の当事者）の体験談
6回	10月17日（火）	小学部の保護者との話し合い（体験談）
7回	11月15日（水）	ブラインドテニスの体験
8回	1月25日（木）	弱視体験（講義・体験）

【全盲体験の様子】



5 早期教育相談

(1) 教育相談の取組状況

見ることは、笑顔に向け合う人との関係づくり、何だろうという興味関心、やってみようという意欲、行きたいという移動・運動の力、集中してものの変化を楽しむなど、様々な発達を促すものである。適切な視覚への配慮は、視力の発達にとどまらず、幼児全体の発達に影響を及ぼしている。そうしたことから、乳幼児支援と子育てに関わる保護者支援が必要であり、教育相談は幼稚部入学前の早期から、特に視力発達が急速な超早期である0歳児からの相談が重要である。

本校では、0～2歳児の乳幼児も定期的に教育相談児として通うことができる。3歳児以上であっても家庭の事情などで本校に籍を置かずに必要に応じて教育相談を受けることができる。

今年度の実施状況は下記のとおりである。なお、相談については、基本的に県内全域の方を対象としているが、参考までに相談に来た方の居住地を載せた。（平成29年12月25日現在）

【定期的来校相談回数】

	回数	延べ人数	相談者の居住地
5歳児	月1回	1名	鴻巣市
2歳児	週2回	100名	日高市
1歳児	月3回	16名	行田市
0歳児	月1回	1名	さいたま市

【不定期来校相談回数】

	延べ人数	相談者の居住地
5歳児	5名	鴻巣市
4歳児	1名	行田市
1歳児	3名	さいたま市
0歳児	2名	県外

【本校以外の会場での相談回数】

	回数	延べ人数	相談者の居住地
小児医療センター	月1回	2名	さいたま市・川口市
川口保健センター	月1回	1名	川口市
鴻巣女子高等学校	月1回	6名	鴻巣市・行田市
さいたま市下落合教育相談室	年1回	3名	吉川市・さいたま市
幼稚園・特別支援学校	随時	2名	行田市・さいたま市
福祉施設・保健センター	随時	10名	行田市・日高市・川越市・鶴ヶ島市・鴻巣市・東松山市

保護者に限らず、保育関係者、病院、施設関係者からの相談も受け付けております。見え方や子育てに関する相談は、下記までお気軽にご連絡ください。

特別支援学校埼玉第一学園幼稚部 教育相談

電話 049（231）2121 Fax 049（239）1015

Mail soudan@mo-sb.spec.ed.jp URL <http://www.mo-sb.spec.ed.jp/>

平成〇〇年度 幼稚園年間指導計画

【学級名:重複学級(年長)】

月の目標	1学期				2学期				3学期			
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
月の目標	年長に進級したこと を書き添ったこと を喜び、新しい環境に慣れる。	春の草花に触れ、 季節を感じる。 体を動かすことを楽し む。	雨の中を歩く体験を 通し、天気について 関心をもち、 友達を意欲的に活動 させる。	水や砂、土などに触 れられる体験を通して、 感触を楽しむ。 衣服の着脱に慣れ、 取り履く。	生活リズムを整え る。 生活や遊びの場が広 がり、家庭や学校以 外のことに関心をも つようになる。	節分祭に向け飾遊び や鬼退治などを楽 しむ。 行事の準備をする。 友達とわいわいが ら遊ぼう。	秋の自然に親しみ、 秋の味覚を知り、 収穫を体験する。 公園のマナーを知 る。	喜びと期待をもって 冬のお楽しみ会に 参加する。 簡単なゲームのある 遊びを楽しむ。	正月の行事や遊びを 楽しむ。 手紙、 戸外での遊びを楽し む。 大切さを伝える。	友達を求めて遊びを 広げようとする。 戸外での遊びを楽し む。	鬼装束に期待し、喜び を感じて学校生活を 楽しむ。	
行事	1学期始業式 入学式 全校児童参観 保護者会	お別れした先生と遊 ぶ会(鷹匠) 親子遠足(千七も動 物自然公園) 誕生会 全校体育祭	幼稚園運動会 野外体験学習 (高麗川での山遊びと 乗馬体験)	七夕会 誕生会 1学期終業式	2学期始業式 誕生会 遠足 (西武園めぐえんち) 保護者会	新月祭(文化祭) 新月祭(文化祭) いもほり ハロウィン	社会体験学習 (サイバハマ・公共 交通機関利用) 焼き芋会 全校授業参観 英語で遊び	誕生会 冬のお楽しみ会 2学期終業式	3学期始業式 野外体験学習 (いちご狩り体験) 英語で遊び 冒険水と触れあおう 保護者会	忘れ草会 誕生会 3学期修了式	入学式 英語で遊び (ALT) 卒業式 3学期修了式	
安全衛生等	アレルギー対応委員会 身体測定(毎月) 歯科検診 耳鼻科検診 眼科検診 眼科相談 検尿 運動訓練(火災)	ロービジョン相談 (5月より毎月) 内科検診 耳鼻科検診 眼科検診 眼科相談 運動訓練(火災)	心臓図検査 プール前検診 プール検診 整形診 眼科相談	学校づくり協議会 アレルギー対応委員会 アレルギー対応委員会 アレルギー対応委員会	防犯研修 学校公開 眼科相談	運動訓練 (起震車体験)	はみがき指導 運動訓練 (緊急地震速報) 学校づくり協議会 (学校評議会)	入学相談 一日体験入学 運動訓練 (緊急地震速報) 学校づくり協議会 (学校評議会)	眼科相談 運動訓練 英語で遊び 冒険水と触れあおう 保護者会	入学相談 一日体験入学 運動訓練 (緊急地震速報) 学校づくり協議会 (学校評議会)	入学相談 一日体験入学 運動訓練 (緊急地震速報) 学校づくり協議会 (学校評議会)	
今月の歌	こいのぼり せいせいとおもちゃ ち	めがねの学校 くじらのバス	プールのうた みなみのしまのハメ ハマだいおう	虫の声 ぼくのミックスジュ ース	ふれあい遊び わらべ歌 手遊び歌	ふれあい遊び わらべ歌 手遊び歌	ふれあい遊び わらべ歌 手遊び歌	ふれあい遊び わらべ歌 手遊び歌	ふれあい遊び わらべ歌 手遊び歌	ふれあい遊び わらべ歌 手遊び歌	ふれあい遊び わらべ歌 手遊び歌	
遊音	あひさつ ふれあい遊び 楽器遊び	あひさつ ふれあい遊び 楽器遊び	あひさつ ふれあい遊び 楽器遊び	あひさつ ふれあい遊び 楽器遊び	あひさつ ふれあい遊び 楽器遊び	あひさつ ふれあい遊び 楽器遊び	あひさつ ふれあい遊び 楽器遊び	あひさつ ふれあい遊び 楽器遊び	あひさつ ふれあい遊び 楽器遊び	あひさつ ふれあい遊び 楽器遊び	あひさつ ふれあい遊び 楽器遊び	
感	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	お正月の飾り こいのぼり	お正月の飾り こいのぼり	お正月の飾り こいのぼり	お正月の飾り こいのぼり	お正月の飾り こいのぼり	お正月の飾り こいのぼり	お正月の飾り こいのぼり	お正月の飾り こいのぼり	お正月の飾り こいのぼり	お正月の飾り こいのぼり	
製	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	
作	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	押し花作り お正月の飾り こいのぼり	
遊	季節の野菜の栽培(トマト、はつかだいこん、人参、サツマイモ等) 水やり 収穫	季節の野菜の栽培(トマト、はつかだいこん、人参、サツマイモ等) 水やり 収穫	季節の野菜の栽培(トマト、はつかだいこん、人参、サツマイモ等) 水やり 収穫	季節の野菜の栽培(トマト、はつかだいこん、人参、サツマイモ等) 水やり 収穫	季節の野菜の栽培(トマト、はつかだいこん、人参、サツマイモ等) 水やり 収穫	季節の野菜の栽培(トマト、はつかだいこん、人参、サツマイモ等) 水やり 収穫	季節の野菜の栽培(トマト、はつかだいこん、人参、サツマイモ等) 水やり 収穫	季節の野菜の栽培(トマト、はつかだいこん、人参、サツマイモ等) 水やり 収穫	季節の野菜の栽培(トマト、はつかだいこん、人参、サツマイモ等) 水やり 収穫	季節の野菜の栽培(トマト、はつかだいこん、人参、サツマイモ等) 水やり 収穫	季節の野菜の栽培(トマト、はつかだいこん、人参、サツマイモ等) 水やり 収穫	
歩	神社公園 山丘公園 山丘公園	近所で果実や種物を採す 買い物体験	近所で果実や種物を採す 買い物体験	近所で果実や種物を採す 買い物体験	近所で果実や種物を採す 買い物体験	近所で果実や種物を採す 買い物体験	近所で果実や種物を採す 買い物体験	近所で果実や種物を採す 買い物体験	近所で果実や種物を採す 買い物体験	近所で果実や種物を採す 買い物体験	近所で果実や種物を採す 買い物体験	
運	リズム運動 ダンス マット遊び カーペット遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	
動	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	
遊	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	リズム運動 ダンス 音響足 カーペット遊び ボール遊び	
歩	神社公園 山丘公園 山丘公園	近所で果実や種物を採す 買い物体験	近所で果実や種物を採す 買い物体験	近所で果実や種物を採す 買い物体験	近所で果実や種物を採す 買い物体験	近所で果実や種物を採す 買い物体験	近所で果実や種物を採す 買い物体験	近所で果実や種物を採す 買い物体験	近所で果実や種物を採す 買い物体験	近所で果実や種物を採す 買い物体験	近所で果実や種物を採す 買い物体験	
課	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	
題	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)
別	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)
法	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)
立	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)	読み聞かせ ことば かず かず かず 文字(墨字) 運動(身体を使った遊び)

6 視覚障害特別支援学校幼稚部における学びに応じた実践事例

(1) 視覚障害特別支援学校の年間指導計画例

- (2) 実際の支援内容の例
 - ア 玩具などの教材を提示し、幼児の遊び方を観察する。
 - イ 観察の中から幼児の見え方、身体の動かし方の特徴をつかみ、見やすい、動かしやすい支援を行う。保護者が実際の様子を見ることにより、幼児との関わり方を学んでもらう。
 - ウ 見やすい、動きやすい、分かりやすくするための工夫を紹介する。
 - エ 見え方や、病気の種類、眼鏡使用の状況から必要に応じ専門機関を紹介する。
 - オ 生活の中で困っていることや悩みに耳を傾け、具体的な支援方法を伝えたり、参考図書を紹介したりする。

(2) 視覚障害特別支援学校の日案例
重複学級（5歳児） 日案

担任 ○○ ○○

○月○日（○曜日）

ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロッコリーの苗植えの体験を通して苗の葉の形や大きさに気付き、苗の植え方を知る。（知識・技能の基礎） ・目と手の協応を図る活動を通して、試行錯誤して取り組む。（思考力・判断力・表現力の基礎） ・友達と一緒に遊ぶことで心地よさを味わう。（学びに向かう力・人間性等） 		評価 ブロッコリーの苗植えの説明を聞いて、手順や植え方を知り、見通しを持って自分から取り組もうとする姿が見られた。友達と一緒に活動を楽しめたことも大きな成長である。弱視なのでじっくり見ることや試行錯誤の時間を長めにとるよう時間に設定に配慮が必要である。	
	物的環境の構成	①自由遊び 室内（言葉による伝え合い、豊かな感性と表現） ・楽器（打楽器や弦楽器、キーボード等） ・ブロック、ままごと ・つみき ・絵本 屋外（健康な心と体、協同性） ・固定遊具、アスレチック ・砂場 ・築山、トンネル ・校庭、庭木、草花		②個別課題 （数量・図形、文字等への関心・感覚） 1：円柱さし 2：茶色の階段 3：ひも結び 4：型落とし（プットイン課題） 課題設置の機の位置
時間	幼児の活動	教師の指導と支援	配慮事項	指導の関連性
9:15	<ul style="list-style-type: none"> ●登校する。挨拶をする。 ●自分のロッカーを探す。 ●リュックの中の所持品をロッカーに出す。 ●着替えをする。シャツの後ろ、ズボンの前に付いている印のところを持って着る。 ●排泄、手洗いをする。 ●自由遊びをする。 ●片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆元気に挨拶を交わす。近くにいる友達の存在を知らせ、挨拶を促す。 ◆所定の場所に所持品を置くように声をかける。 ◆着替えられるところは一人で言い、できない部分を一緒に手を添えて援助する。カゴに脱いだ服を入れるように声をかける。 ◆トイレで必要な支援をする。 ◆選んだ物と一緒に楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者に主な活動を伝える。 ○自分のロッカーと一緒に探し、所持品を置くよう声をかける。 ○連絡帳に目を通し、内容を把握しておく。 ○着替えの際に、持ち手の印（ボタン等）を頼りに、前後を間違えないように見守る。カゴを活用し、脱いだ服（カゴに入れる）、着る服（カゴの左外側に置く）を明確にさせる。 ○トイレまでの移動の安全に目を配る。 	<ul style="list-style-type: none"> ★自立活動6区分 ■幼稚園教育要領5領域 ◎幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿 ★健康の保持 ★心理的な安定 ★環境の把握 ★身体の動き ★コミュニケーション ■健康 ◎健康な心と体 ◎自立心
10:00	<ul style="list-style-type: none"> ●朝の会をする。（クラスルーム） ・挨拶・歌・お名前呼び ・日付と本日の予定 ・ブロッコリーの苗を観察と触察 ・当番の話 ・今月の歌 ●水分補給をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆朝の会の進行に耳を傾けるように声をかける。ブロッコリーの苗の葉の形や大きさなど、手で触った感覚を言葉にする。植え方の説明を聞くように促す。畑で苗植えをすることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の会で、一日の生活の見通しが持てるようにする。苗の下に新聞紙を敷く。安心して触れる環境を作る。触り方を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★心理的な安定 ★人間関係の形成 ★環境の把握 ★コミュニケーション ■人間関係 ■環境 ◎自然との関わり ◎思考力の芽生え
10:15	<ul style="list-style-type: none"> ●帽子をかぶり、外へ移動する。 ●ブロッコリーの苗植えをする。 ●外遊びをする。 ●手洗いや、水分補給、排泄をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆畑に安全に誘導し、立札を探すよう働きかける。シャベルの使い方、苗の植え方、水のやり方を教える。道具を片づけさせ、手洗いを補助する。 ◆遊びたい遊具へ安全に誘導する。十分身体を動かすよう働きかけ、苦手な運動に挑戦できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○靴箱を探し、外靴への履き替えを促す。 ○畑には名前の色別になっている札を立てておく。教師と一緒にやって道具の使い方に慣れる。 ○身体の動かし方を覚えられるように、声をかけたり、手を添えたりして一緒に動く。 	<ul style="list-style-type: none"> ★健康の保持 ★心理的な安定 ★環境の把握 ★身体の動き ■健康 ■環境 ◎健康な心と体 ◎自然との関わり
11:00	<ul style="list-style-type: none"> ●課題別学習をする。（プレイルーム） 1 円柱さしに取り組む。 2 茶色の階段に取り組む。 3 ひも結びとひもほどきをする。 4 型落としをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆やり方を教え、一人で取り組めるようにする。課題を終えたら、次のテーブルに進むように声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題を一つのテーブルに一つ提示して、見通しを持ちやすくする。戸惑っている場合は、手を添えて一緒に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ★心理的な安定 ★環境の把握 ★身体の動き ■環境 ◎思考力の芽生え ◎数量や図形、文字などへの関心・感覚

	<ul style="list-style-type: none"> ●自由遊びをする。 ●片付ける。 ●排泄や、手洗いをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆やりたそうな遊びや昨日の続きの遊びを思い出し、好きな遊びを選べるよう支援する。友達の遊びに関心が持てるように誘う。一緒に楽しみ、遊びを広げる。 ◆給食であることを伝え、遊んだ物を一緒に片づける。 ◆丁寧に石けんで手洗いをするよう声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達との関わりが持てるように、周りの友達の様子を知らせる。近くの友達の遊びの様子で一緒に遊べそうな友達を誘うよう支援する。 ○ポンプ石けんの置き場は固定しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ★健康の保持 ★心理的な安定 ★人間関係の形成 ★環境の把握 ★身体の動き ★コミュニケーション ■人間関係 ◎道徳性・規範意識の芽生え ◎社会生活との関わり ◎豊かな感性と表現
12:00	<ul style="list-style-type: none"> ●給食の準備をする。 ●給食を食べる。 ●食器等を片付ける。 ●歯磨きをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆食事に必要なものをテーブルに置く。 ◆スプーンやフォークの持ち方、すくい方を支援する。 ◆手や口元が汚れたら、おしぼりで拭くように声をかける。 ◆自分のものを片付けるよう、声をかける。 ◆仕上げ磨きをする。 ◆口をすすぐことを教える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○給食のおかずの食材の大きさを確認し、噛みにくいもの（繊維質等）は刻みバサミで切る。安全に食事ができるようにする。 ○苦手な物でも、ひと口でも食べられたら、一緒に喜ぶ。 ○自分から食べてみようと思えるような雰囲気をつくる。 ○口のすすぎ方は、やって見せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★健康の保持 ★人間関係の形成 ★環境の把握 ★身体の動き ★コミュニケーション ■健康 ■人間関係 ◎自立心
13:00	<ul style="list-style-type: none"> ●着替える。 ●ロッカーの荷物をリュックにしまう。 ●自由遊びをする。 ●排泄、手洗いをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆服の持ち手の印に気付かせて着替えるよう支援する。 ◆ロッカーの荷物をリュックに入れるよう声をかける。 ◆好きな遊びを一緒に楽しむ。 ◆トイレに必要な支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○リュックに入れやすい物の順番で声をかける。 ○今日の活動の終わりを知らせ、遊びを片付けるよう支援する。 ○トイレに安全に移動できるように見守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ★健康の保持 ★心理的な安定 ★環境の把握 ★身体の動き ★コミュニケーション ■健康 ◎自立心
13:30	<ul style="list-style-type: none"> ●帰りの会をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・一日の振り返り ・楽しかったことの発表 ・翌日の予定 ・今月の歌や帰りの歌、挨拶 ●リュックを背負い、昇降口へ移動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆一日を振り返られるように、出来事をいくつか伝える。楽しそうだったことを一緒に発表する。 ◆楽しい気分で歌う。 ◆リュックを背負う支援をする。安全に誘導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一日の振り返りでは、本児が笑顔で取り組んでいたことが想起できるようにする。 ○明日の予定を伝えて、期待を持てるようにする。 ○安全に移動できるよう見守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ★心理的な安定 ★人間関係の形成 ★コミュニケーション ■言葉 ■表現 ◎言葉による伝えあい
13:45	<ul style="list-style-type: none"> ●迎えに来た母親に、「ただいま」の挨拶をする。 1日の報告を一緒に聞く。 別れの挨拶をして車に乗り、下校する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆母親に、良かったことなどを本児の前で報告する。 明日の予定等を伝え、別れの挨拶を交わす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○母親に特に報告したい出来事を伝え、成長を共に喜び合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ★心理的な安定 ★人間関係の形成 ★コミュニケーション ■人間関係

(3) 視覚障害特別支援学校の指導事例

視覚障害特別支援学校幼稚部 設定遊び（感触・製作遊び）指導案

1 日時・場所 平成〇年〇月〇日 11:00～11:40 〇〇教室

2 活動設定の理由

野外体験学習で高麗川に行き、川原で石を拾って来た。自分で集めた材料で工作をする経験が必要だと考え、川遊びと感触・製作を関連づけた。触ることに抵抗のある幼児でも、石は硬く、形がはっきりしているため、取り組みやすいと考えた。また、自然の素材と触れ合うことで、自然に対する興味・関心を広げるきっかけになることも期待できると考え、本活動を設定した。

※本活動で前提とする幼稚園教育要領5領域の内容に関連する事項

【環境】(1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。

【表現】(5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。

(7) 書いたり、作ったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。

3 ねらい

共通目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分が拾った石をよく触り、形、大きさ、重さ、手触り、色などの違いに気付く。(知識・技能の基礎) 石を並べたり重ねたりして、自分の力で様々な形を構成する。(思考力・判断力・表現力の基礎) 作りたいものをイメージしながら、意欲的に手を動かす。(学びに向かう力・人間性等)
個人目標A (5歳児 一般学級・全盲)	<ul style="list-style-type: none"> 石を触って感触(大きさ・重さ・硬さ)を感じる。(知識・技能の基礎) 自分で触って動かし、自由に並べたり重ねたりする。(思考力・判断力・表現力の基礎)
個人目標B (5歳児 一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> 石の形から作りたいものをイメージし、自分なりの作品を製作する。(思考力・判断力・表現力の基礎) 製作したいものに何が必要かを考え、意欲的に取り組む。(学びに向かう力・人間性等)
個人目標C (5歳児 重複学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> 石を一つずつ見て触って、色や形、大きさに気付く。(知識・技能の基礎) 教師と一緒に並べたり重ねたり話をしたりしてイメージが浮かんできたものを作る。(思考力・判断力・表現力の基礎)
個人目標D (4歳児 一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> 実際に石を動かしながら作るものを考える。(思考力・判断力・表現力の基礎) できるだけ教師の支援を受けずに作品を製作する。(学びに向かう力・人間性等)
個人目標E (4歳児 一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> 複数の石の形から作りたいものを考える。(思考力・判断力・表現力の基礎) 石を動かして形を様々な形を作ることに集中する。(学びに向かう力・人間性等)
個人目標F (3歳児 一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> 石をよく触り、石の感触(大きさ・重さ)を感じる。(知識・技能の基礎) 石を自由に並べたり重ねたりする。(思考力・判断力・表現力の基礎)

4 展開

時間	幼児の活動	教師の指導と支援	準備等
5分	<ul style="list-style-type: none"> ○当番がはじめの挨拶をする。 「これから製作を始めます。」 ○始まりの歌を歌う。 右手はグーで左手もグーで「石並べ」 右手はグーで左手もグーで「石重ね」 	<ul style="list-style-type: none"> ○机の上に何も置かないようにする。 ○グーの形ができているかを確認しながら、ゆっくり歌う。 ○「並べる」と「重ねる」の違いがよく分かるように両手の場所を教える。 	
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○川で拾って来た石で製作することを教える。 ○板と自分が拾って来た石を受け取り、板の上で石を並べたり、重ねたりして、違う形ができることを知る。 ○何を作るかを決める。 ○色を塗っても良いことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高麗川で石を拾って来たことを思い出そう支援する。 ○並べた石と重ねた石の見本を見たり、触ったりする。 ○全盲の幼児には、拾って来た石を一つずつ丁寧に触るよう支援する。 ※自立活動の内容に関連する事項 (4) 環境の把握 ア 保有する感覚活用に関すること。 ○一人で決められない場合には、教師と相談したり、教師が支援をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 並べた石と重ねた石の見本 板(B4程度)・石 絵の具 筆・皿 新聞紙

15分	○各自で製作する。	○色塗りと構成のどちらを先にやるかの手順を確認する。 ○石を落したり、投げたりすると危ないので、幼児から目を離さないように注意する。	
10分	○友達の作品を見る。 ○次週に続きをやることを知る。 ○当番が終わりの挨拶をする。 「これで製作を終わりにします。」	○作ったものを壊さないように丁寧に触る。 ○良くできている点を見つけてほめる。 ○片づけを手伝える幼児には、仕事を任せろる。	

5 評価

(1) 本時の評価

全体の評価	自分が拾った石を使うことにより、製作意欲を引き出すことができた。全盲や見えづらい幼児は、作りたい物のイメージを持つことは難しいため、導入の際に工夫が必要である。
個人評価A	石の感触や重さから感じとったことを言葉にして表現できた。石で作りたい物を自分で考え、教師と一緒に並べることができた。
個人評価B	石の形から作りたいものをイメージし、石をつなげて作品を作り上げる事ができた。また色合いも考え、集中して取り組む事ができた。
個人評価C	石を次々並べたり、積み上げたりする中で、山のイメージが持て、絵の具に興味を持って、色付けまで集中して楽しめた。
個人評価D	石をいろいろと動かしてみたが、作りたいものが思いつかず、石の色塗りにから始めた。友達の作品をよく見て、良い点を見つけていた。
個人評価E	「花」というイメージをすぐに思いつき、石に色を塗ることに集中して取り組むことができた。作ることに喜びを感じ、言葉でも表現していた。
個人評価F	最初は自分から触ろうとしなかったが、1つ渡して持たせると石を握ってみたり他の大きな石を自分から触ってみたりしていた。並べると意識しなかったが、教師が石を重ねて見せると、いくつか重ねていた。

(2) 次の授業の改善点

全体の改善点	幼児が作品へのイメージを広げ、楽しく表現活動ができるよう支援する。
個人の改善点A	絵の具以外に凹凸のあるシールを石に貼るなど、手で触って楽しめるよう工夫する。
個人の改善点B	平面としての作品だけでなく、石を重ねて作る立体も考えられるよう声かけをする。
個人の改善点C	山のイメージを次回の導入時に想起させ、色塗りを楽しみつつ、仕上がる喜びが味わえるよう工夫する。
個人の改善点D	色塗りにした石から作りたいものを考え出せるようじっくりと考える時間を与えるようにする。
個人の改善点E	作業が途中で乱雑になることがあるため、仕上げまで集中して取り組めるように声かけをする。
個人の改善点F	「並べると○○みたいだね」と石の形や並べることに関心を持てるよう声かけをする。



※本活動における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

(7) 自然との関わり・生命尊重 川に入って自分で拾った石を素材としている。

(10) 豊かな感性と表現 石を並べたり重ねたりして表現することを喜ぶ。

視覚障害特別支援学校幼稚部 設定遊び（運動遊び）指導案

1 日時・場所 平成〇年〇月〇日 11:00～11:40 体育館

2 活動設定の理由

マット運動は、多くの動きを取り入れられるため、様々な動きに挑戦し、技ができた時の楽しさや喜びを味わえる活動である。日常の生活では、経験しづらい「逆さになる・転がる・手で体を支えて回転する」などの動きを取り入れることにより、首や股関節などの可動域を広め、体を支える力や柔軟性・巧緻性、調整力などの力を養えと考え、本活動を設定した。

※本活動で前提とする幼稚園教育要領5領域の内容に関連する事項

- 【健康】(2)いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。
- (4)様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。

3 ねらい

共通目標	<ul style="list-style-type: none"> ・体の動かし方を知り、様々な姿勢や動きを身につける。(知識・技能の基礎) ・体を動かす楽しさや心地よさを感じる。(学びに向かう力・人間性等) ・振り返りで発表する内容を教師と考え、発表する。(思考力・判断力・表現力の基礎)
個人目標A(5歳児一般学級・全盲)	<ul style="list-style-type: none"> ・教師に手足の動きを声かけしてもらいながら、一つ一つの動きを理解する。(知識・技能の基礎) ・何が楽しかったか、上手にできたかを考えて発表する。(思考力・判断力・表現力の基礎)
個人目標B(5歳児一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> ・マットの足裏感覚に慣れて安心して運動ができる。(学びに向かう力、人間性等) ・体の動かし方は教師の見本の時に特に丁寧に触ってイメージする。(知識・技能の基礎)
個人目標C(5歳児重複学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手な動きにも積極的に取り組む。(学びに向かう力・人間性等) ・体の動かし方を知り、イメージした通りに動かす事ができる。(知識・技能の基礎)
個人目標D(4歳児一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の動きをよく見て、正しく体を動かす。(知識・技能の基礎) ・できたところ、むずかしかったところを発表する。(思考力・判断力・表現力の基礎)
個人目標E(4歳児一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい動きを覚え、あわてずに体を動かす。(知識・技能の基礎) ・順番を守り、みんなで楽しく活動する。(学びに向かう力・人間性等)
個人目標F(3歳児一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の支援を受けながら、自らで動かせるところは、自分で動かす。(知識・技能の基礎) ・床とマットの違いに気付き、感触を楽しむ。(学びに向かう力・人間性等)

4 展開

時間	幼児の活動	教師の指導と支援	準備等
5分	○全員がマットの上に一列に座る。 当番がはじめのあいさつをする。	○集合場所のマットに、誘導する際は太鼓や拍手などの音で場所を伝え、見通しを持てるよう場所、内などを伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・太鼓 ・マット
5分	○リズム運動をする ①ジャンプ②タオル回し ③横曲げの運動 ④前後の運動 ⑤アキレス腱伸ばし ⑥全身を回す	<ul style="list-style-type: none"> ○リズム運動の曲を知らせ、弱視の幼児に向けて教師が幼児の前で一緒に踊る。模倣が難しい幼児には、各担当教師と一緒に体を動かして動きを覚えられるよう支援する。 ○リズム運動で使うタオルひもは、三つ編みのものを用意し、触って握りやすいようにする。また、タオルより重さが増し、振った手ごたえを感じやすく支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タオルひも
5分	○マラソンをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○教師と手を繋いで走ったり、声の誘導のみで走ったり、それぞれの運動能力や見え方に合わせた支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CDプレーヤー ・音源CD

The diagram shows a rectangular stage with a CD player on the floor. A callout box points to the stage area, stating: "・体育館の外周は色が黒く、材質が違って、弱視の幼児は色の違いや足裏からの感覚を目印に" (The outer perimeter of the gymnasium is black, the material is different, and visually impaired children use color differences or sensations from their soles as a landmark). Another callout box points to the CD player, stating: "・毎回同じ曲を使っており、更に定位置に置くことで幼児自身の位置をイメージできるようにする。" (We use the same song every time, and by placing it in a fixed position, we can help children imagine their own position).

15分	○マット遊びをする。 ・ゆりかご ・馬歩き ・アヒル歩き ・丸太転がり ・前まわり	○マットに触ったり、歩いたり、跳ねたりして、床との感触の違いを伝える。教師が見本となった姿勢を、手で辿れるように触り、体の姿勢や動きがイメージできるよう支援する。 ○言葉でも動きを丁寧に説明し、動きが難しい幼児には支援を行う。 ※自立活動の内容に関連する事項 (1) 身体の動き ア 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。 イ 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。	・マット (人数分)
5分	○活動を振り返る。「上手くできたこと」「次回頑張りたいこと」などを考えて発表する。	○「○○ができました。」「○○が楽しかったです。」など、表現できるよう支援する。 ○幼児が発表した以外のことで、上手にできたことなどを細く説明する。	
5分	○マットを片付ける。 ○当番がおわりのあいさつをする。	○周囲の安全を確認して、一緒にマットを運ぶ。	

5 評価

(1) 本時の評価

全体の評価	マットの上でいろいろな動きに挑戦することができた。幼児にとって初めての動きにも教師からの支援を受け、体の動かし方を知ることができた。一人一つのマットを使用する事で幼児のペースで練習を進めることができた。
個人評価A	馬歩きや丸太転がりなどの動きは、教師の声かけから動きを理解して取り組めた。
個人評価B	練習を繰り返した事で、前時よりも更に正しく動くことができた。
個人評価C	マットに慣れて、マット上で体を動かす楽しさを味わった。
個人評価D	教師の見本を見て、自分が一生懸命練習したところを発表することができた。
個人評価E	「あわてなくていいよ」という声かけをした時には、自分の動きを意識していた。
個人評価F	カエル歩きやアヒル歩きは教師が支援しても難しかったが、馬歩きは動きを覚え、声かけによって一人で行えるようになった。

(2) 次の授業の改善点

全体の改善点	幼児によって取り組むべき課題が違うため、それぞれの課題に取り組む時間を多く設けるようにする。
個人の改善点A	本児が全盲であることも考慮し、動きを事前学習して理解を深めておくようにする。
個人の改善点B	やりたがらない動きも練習できるようにする。
個人の改善点C	マット運動の各動きのポイントを絞って取り組めるようにする。
個人の改善点D	苦手だったところを部分的に練習するようにする。
個人の改善点E	一つ一つの動きを確実に覚えるようにゆっくり提示をする。
個人の改善点F	マットの感触に慣れ、マット上で体を動かす楽しさを味わえるようにする。



【三つ編みのタオル】



【見本の姿勢をたどる幼児】



【体育館の外周】



【マット運動の環境設定】

※本活動における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

- (1) 健康な心と体 諦めずにやり遂げることで、達成感を味わい、心と体を十分に動かしている。
(10) 豊かな感性と表現 体験して分かったことや感じた事、考えた事を自分で表現する。

1 日時・場所 平成〇年〇月〇日 11:00～11:40 ○〇教室

2 活動設定の理由

本活動の幼児は、歌を歌ったり、ピアノを弾いたりして音楽に対して関心を持ち始めている。友達と一緒に声を合わせて歌ったり、楽器を鳴らしたりする楽しさや、音楽を通して人と関わる経験ができるようにしたいと考えた。本活動は、友達の名前を呼び、呼ばれたら応える遊びであるため、視覚障害がある幼児においては、楽しむことができる活動である。幼児が歌を通してふれあいを楽しむことを期待して本活動を設定した。

※本活動で前提とする幼稚園教育要領5領域の内容に関連する事項

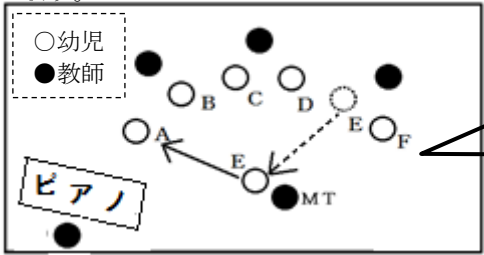
【表現】(6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。

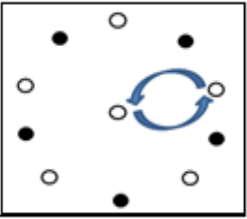
【言葉】(1) 先生や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり、話したりする。

3 ねらい

共通目標	<ul style="list-style-type: none"> ・手遊びを通してリズムに合わせて手を叩く。(知識・技能の基礎) ・遊び歌のルールが分かって、自分から友達を呼んだり、呼ばれたら応えたりする。(思考力・判断力・表現力の基礎) ・友達と一緒に遊び歌をすることでふれあう心地よさを感じる。(学びに向かう力・人間性等)
個人目標A (5歳児 一般学級・全盲)	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて大きな声で歌う。(知識・技能の基礎) ・遊び歌のルールを理解し、楽しんで活動する。(思考力・判断力・表現力の基礎)
個人目標B (5歳児 一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい音程で歌う。(知識・技能の基礎) ・友達と一緒に活動する楽しさを味わう。(学びに向かう力・人間性等)
個人目標C (5歳児 重複学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び歌のルールを知り、友達と一緒に楽しむ。(知識・技能の基礎) ・歌を歌うことで心地よさを味わう。(学びに向かう力・人間性等)
個人目標D (4歳児 一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や教師と声を合わせて楽しく歌う。(知識・技能の基礎) ・呼ばれていない友達は誰なのかを考え、みんなで楽しむ。(思考力・判断力・表現力の基礎)
個人目標E (4歳児 一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> ・口を大きく開けて歌を歌う。(知識・技能の基礎) ・友達とのやりとりを楽しむ。(学びに向かう力・人間性等)
個人目標F (3歳児 一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムに合わせて手を叩くことを楽しむ。(知識・技能の基礎) ・遊び歌を通して友達と関わろうとする。(学びに向かう力・人間性等)

4 展開

時間	幼児の活動	教師の指導と支援	準備等
5分	<ul style="list-style-type: none"> ○始めのあいさつをする。 ○始まりの歌『手をつないでこんにちは』を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しい雰囲気始める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 当番が歌に合わせて友達に一人一人に握手をして、「こんにちは」とあいさつをする。それを受けた友達も「こんにちは」とあいさつを返す。 </div>	椅子 ピアノ
5分	<ul style="list-style-type: none"> ○今月の歌を歌う。 『コンコンクシャンのうた』 『赤鼻のトナカイ』 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌に登場する動物はどのようなマスクをしているのか話をし、イメージできるように支援する。 ○クリスマスに関連した話をし、クリスマスをイメージできるように支援する。 	
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○手遊び『あたまのうででパンパンパン』をする。 ・速度を変えてリズム打ちをする。 ・タンバリンを使って楽しむ。周りに衝突しない程度に広がり、立った状態で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○リズム打ちで叩く体の場所を確認する。 ○始めはゆっくりとしたリズムで徐々に速度を上げて楽しめるよう支援する。 ○輪を広げる時や手遊びを行う時には、衝突しないよう配慮する。 	タンバリ

15分	<p>○遊び歌『どこでしょう』をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・椅子を円形に並べて座る。 ・一人の幼児が中心に立つ。 ・真ん中の幼児が誰を呼ぶか決める。 ・全員で「○○ちゃん、○○ちゃん、どこでしょう」と歌う。 ・呼ばれた幼児は、「ここです、ここです、ここにあります」と歌い、いるところを知らせる。 ・友達にタッチし、タッチされた幼児は交代する。 ・繰り返し行う。 		ン
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・座っている位置の確認をする。 ・『どこでしょう』の歌を聞いて歌を知る。 ・みんなで歌ってみる。 ・ルールの説明を聞く。 ・遊び歌を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児の名前を呼び、返事をするにより友達がどこに座っているかが分かるようにする。 ○ルールを説明し、見本を示す。 ○教師が輪の間に入り、一緒に歌ったり動き方を支援したりする。 ○友達を呼ぶ時や応える時に友達の方を向いて行えるよう支援する。 ○全員が一度は名前を呼ばれるように配慮する。 <p>※自立活動の内容に関連する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> (4) 環境の把握 <ul style="list-style-type: none"> ア 保有する感覚の活用に関すること (6) コミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ア コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 	
	<p>○『おわりのうた』を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当番があいさつをする。 	<p>○次回の予定を伝えて、期待感が持てるように支援をする。</p>	

5 評価

(1) 本時の評価

全体の評価	遊び歌では、名前を呼ばれた幼児が友達に積極的に「こっちだよ」と声をかけ、中心に立った幼児は声を頼りに友達に近づき、嬉しそうに手をつなぐ様子が見られた。
個人評価A	声かけによって大きな声で歌うことができた。遊び歌では、遊び歌のルールを理解し、楽しんで活動に参加できた。
個人評価B	高音と低音の差があるところを意識して歌うことができた。
個人評価C	友達の歌う声を楽しそうに聞きながら歌っていた。遊び歌は教師の支援で友達とのふれあいを楽しんだ。
個人評価D	友達や教師の声を聴きながら、きれいな声で歌っていた。歌詞を間違えてもあまり気にせず、に大きい声を出せるようになった。
個人評価E	口を開けるように声かけをすると、その時には、大きい声を出せていた。リズム打ちでは、立って演奏することを提案し、リーダーとなって楽しんでた。
個人評価F	手遊びでは叩く場所の意識はまだないがリズム打ちが上手にできていた。遊び歌では、歌うことは難しいが何度か繰り返し行うことで自ら移動し友達にタッチすることができた。

(2) 次の授業の改善点

全体の改善点	遊び歌のルールの確認後、理解ができている幼児には教師の支援を控え、友達の声を頼りにふれあえるようにする。
個人の改善点A	声かけがなくても大きな声で歌えるように促し、楽しく友達と関わられるようにする。
個人の改善点B	正しい音程で声を大きく歌えるように日常の中でも歌うようにする。
個人の改善点C	教師の支援を徐々に減らして、友達と関わる遊びを楽しめるようにする。
個人の改善点D	歌詞に自信がなさそうなところは、教師が小さい声で教えるようにする。
個人の改善点E	授業の始まる前に頬をマッサージし、口を大きく開けて歌えるように柔らかくしておく。
個人の改善点F	歌うことは難しいため、動き方を支援しながら手拍子でも楽しめるように促す。

※本活動における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

(9) 言葉による伝え合い 遊び歌を通して友達を呼び合う楽しさを味わう。

(10) 豊かな感性と表現 歌や手遊びで表現する喜びを味わう。